

「主体的で対話的で深い学び」を考える① 「深い」とは？

22年度からの新学習指導要領実施に向けて本校でもカリキュラムマネジメントをめぐる議論がされています。この間、「深い学び」について考えてきたことを述べてみたいと思います。

＜大阪府立西成高校の「反貧困学習」から考える＞

先日「逆転人生」というテレビ番組で西成高校の「反貧困学習」の取り組みが紹介されていました。大荒れの同校の教師集団が取り組んだこの学習に「深い学び」の1つのヒントを私は感じました。「生徒が貧困と向き合い、そこから抜け出すための具体的な術を学ぶ特別授業だ。深刻な教育困難校だった西成高校は、この授業をきっかけに非行や中退が激減し生まれ変わった。驚きの授業風景、そして先生と生徒の涙の逆転を描く。」と番組では紹介されています。2006～2009年に同校校長を務めた前比呂子によると06年の授業料減免率は62.3%で貧困家庭が6割を超え、学力不振、不登校、虐待、中退などの問題が山積していたという。特に中退者は「高卒」という利益を失い格差と貧困の再生産につながる。反貧困学習は「格差の連鎖を断つ」ことを同校のミッションとして取り組まれた実践です。

この実践を垣間見て思ったことは、生徒たちの様々な問題（学力不振、授業放棄など）の根底に「夢」や「将来」を描けない貧困と格差の連鎖・再生産という現実があり、反貧困学習はそこに食い込むことによって「学びのリアリティ」を持たせたのだと思います。こうしたリアリティは「深い学び」の重要な要素ではないでしょうか。

＜「深い学び」の二つの道＞

授業は子ども・教師・教材の3要素からなるもので、したがって「主体的で対話的で、深い学び」はこの3要素全体の関りから分析される必要がある、というのが一般的には議論の大前提とされています。しかし、「教材」という概念は学習指導要領や教科書であったり、教師によってあらかじめ作成されたもの（「自主教材」）であっても、それは子どもの側から直接提起された内容（＝学習要求に基づく学習内容）とは言い難いものです。（この点では、西成高校の反貧困教育は教師による「自主教材」と言えます。）

1980年前後から学びを子ども主体のものに転換しよう（「学びのパラダイム転換」）という提起の中で「教材」ではなく「学習材」という言葉が教育実践で使われるようになってきました。我が国の教育実践史では「生活勉強」という考え方があり、『やまびこ学校』（無着成恭編著）の中学生の学習がよく知られています。江口江一君が綴った「母の死とその後」などの作品を読んだ歴史学者・上原専禄はその衝撃を以下のように述べています。

「私はかつて『やまびこ学校』を読んだとき、社会科学にたずさわるものとして、虚をつかれたという感じの強いショックを受けた。」

「社会科学は概念的に認識することを目あてとしており、従ってそこに問題の捉え方、認識の仕方に限界があるが、生活綴方では、生活の上での具体的な問題が、どう解決せられるべきかを常に目ざして捉えられ、認識されている。」

「国分さんや無着さんの、生活綴方による教育は、自分の問題を社会の場面において認識し、それを自己の責任で解決しようとする新しい型の人間をその教え子から創り出した。」

こうした「生活勉強」は教科の系統性、教育の現代化をめぐる論争の中で批判されて教育実践の表舞台から退き、「総合学習」によって再び注目されるようになります。

＜小結＞こうしてみると、「深い学び」は共通教材を主とする授業と、生徒各個人が自身のテーマで探求する学習とでは、異なる道筋をとるのではないかと思われま

<看護専攻科2年生の発表から考える>

専2の「教育学」の授業では3限目に生徒による発表を4人ずつ組みました。テーマは「教育」に関するもので各自が決めて約3分間発表し、質疑応答、感想用紙記入で1人当たり約10分間かけます。テーマは多様でしたが、「恋愛教育」や「性教育」、「金融教育」というものもありました。「性教育」や「金融教育」というのは知っていましたが「恋愛教育」は初耳でした。

発表者は自身が「良い恋愛経験をしたことがない」し、辛い思いをした人が周りにいるというのでネット資料だけでなく友人たちの聴き取りをもとに「クズ男から卒業する方法」も提案しています。

「自己実現」や「他者への理解、尊重」という意味で恋愛は学習した方が良い、「傷つくことがあるからこそ喜びがある」という結論が出されています。「クズ男」は初耳でしたがネットでみると「クズ男＝女性を振り回し、翻弄する男」という説明があり、かなり流通している言葉なんですね。発表に関する生徒の感想を少し紹介します。

私もZさんの恋愛アンケートに答えた1人でした。クズ男にひっかかりとても苦しい思いも沢山しました!!(笑)でも、その経験はムダではなかったし、「こういう人もいるんだ」とか自分にはない世界を知れました。でもやっぱり辛い思いをするのは女の子だし、クズ男は自分のことばかり考え、思いやった行動ができていない人がいると思います。恋愛は、人間を大きく成長させるし、色々な人に出会い、経験をしてこそ、本当に好きなパートナーと人生を歩んでいくことに繋がります。自分がされた分、人には嫌なことをしないようにしていきたいです。そのためにも、恋愛教育は必要だと思います。皆が幸せになれるように!! * 文意に沿って一部校正しました

自分も夜中に家を追い出してくるようなクズ男との恋愛をしたり過去に付き合った人は皆浮気をするようなゴミだったのでZさんの発表である恋愛教育の必要性はとても感じていました。また、クズ男から卒業する方法にて提案されていた事は本当に全て有効だと感じた。恋愛教育が普及し傷付く女、そして男が少しでも減れば良いと思う。

恋愛について教育するのは難しいのではないかと思った。恋愛観は教えられるというより親や友人など親しい人の恋愛行動を見て模倣するところから始まっていくものだと思う。教えられても相手を思いやりをもって接する大切さを伝えていくしかないと思う。

自分も今彼氏がいて、仲は良好だと自分では思っていたが、クズ男の特徴に当てはまる場所がありすごく不安になった。でも、自分の事ことを大切にしてくれているということはすごく伝わっているため、今後も良い仲が築けるように相手を思いやる気持ちを大切にしていきたい。

以前、「性教育」についての発表があった時も自分たちの身の回りで起こっていることを生々しく感想に書く生徒が何人もいましたが、恋愛にしろ性にしろ、現実の問題を抱えたり悩んでいる姿が表れていました。この発表は「正解」を求めているものではなく、自分たちが関心を持ち、考えた事を共有し、意見を交換する中で自分の考え方を深めていくために行っています。出された意見や感想は授業通信『伝々夢詩』で全員にフィードバックしました。(無記名で紹介) この通信に関しては以下のような感想が出されています。

授業終わりに毎回感想を書き、それを次回の通信に抜粋して載せてもらえることで、ほかの人がどんなふうにとらえていたのかを知ることが出来るので、自分の考えの視野を広げることにつながった。

伝々夢詩にてみんなの感想を載せてくれることにより自分の考えだけでなく多方面からの意見を知ることができ、そのような考えもあるのかと考えを深められ、伝々夢詩を見るのが楽しみになっていました。

私は「自己の経験を相対化し、世界を拓けながら自己の思想を深めていく」ことが学びの基本哲学だと考えています。その中で「書くこと」の意味と役割を考えていきたいと思っています。